NPO 法人 純正律音楽研究会会報　～2023 年 7 月発行～

ひびきジャーナル

〒169-0073　東京都新宿区百人町 4-4-16-1218　Tel:03-5389-8449
Fax:03-5389-8449　e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日　2023 年 7 月 7 日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集　相坂政夫

No.76

今年も、早くも半ばを過ぎ、炎暑しのぎがたいこの頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、コンサートの会場で、市川のヤマザキパン「LLC ホール」が利用できなくなっています。ステージにパイプオルガンを設置する工事が今年の 1 月から始まっています。当初は 1 年の予定でしたので、今年の 12 月に当会のコンサートを開催できるか問い合わせたところ、工事が来年の 8 月までかかるとのことでした。誠に申し訳ございませんが、市川でのコンサートは来年 9 月以降になります。ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、次回のコンサートは、7 月 29 日（土曜日）横浜市磯子区民センター「杉田劇場」で開催いたします。

今回は午前と午後の 2 回開催となります。午前は開演 11 時 30 分、午後は 3 時開演となります。

体に心地良い純正律の響きで、歌謡曲からスコットランド民謡、クラシックまで、皆様がよくご存知の名曲の数々を、ヴァイオリン、ハープ、箏、ハーモニカでお届けいたします。ぜひ、ご来場いただければ幸いです。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

これからの日本

洗足学園音楽大学客員教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

7 月に入り天候が落ち着かなく、今日も 30 度超えの暑さです。地域によっては突然の大雨になり、川が氾濫したり、自然災害も多いようです。
運転していても全く前が見えなくなることもあり､私が 30 年運転している車は、時々突然ワイパーが動かなくなり本当に困ります。(整備の方に持って行く時はワイパーは動いていて、原因不明なのです)

先日は、第７回 MET イノベーションサミットに参加させていただきました。国会議事堂のお隣にある衆議院第２議員会館に集まり、こんなに覚醒した人々が集まり疫病・予防注射・世界情勢に精通した言葉を聞き、今後、流行る疫病などの情報もいただきました。平和を真剣に考えている方々であり、文化の果たす役割も大きく、ヴァイオリンでご挨拶をしてから 30 分ほど音楽が果たす役割、これからの子供達についてについて話をしてきました。初めて入った衆議院議員会館でした。

また別の日には、サントリーチェンバーミュージックガーデン 2023 に行ってきました。教え子の毛利文香さんも出演されていましたが、彼女が勉強していたクロンベルクアカデミーの教授たちも出演され、日本の若手のクァルテットや元東京クァルテットの原田幸一郎先生、池田菊衛先生、磯村和英先生方も出演されて。若手と大御所の共演もとても楽しみました。

それにしても、もちろん最近の日本の弦楽器奏者のレベルがとても上がっていてびっくりしますが、この 50 年の日本の室内楽の分野の成長もすごい！
世界の室内楽コンクールでも入賞団体も多いですが、意識が高まっていることを再認識させられるコンサートでありました。
本当にこれからの日本が楽しみになってきています。

さて、7 月 29 日には、杉田劇場でハーモニカの崎元譲さんとの共演になります。ぜひ、美味しいランチを楽しまれて、午前、午後の公演に足を運んでいただければ嬉しいです。
私は今からワクワクです。

ムッシュ黒木の純正律講座　第 75 時限目
平均律普及の思想的背景について(64)
純正律音楽研究会理事　黒木朋興

前回、音楽という芸術が有するミーメーシスの性格について見た。ミーメーシスとしての音楽とは大きく以下の２つにまとめることができる。一つ目は数比関係によって運行している宇宙のシステムの写し＝コピーとしての音楽、二つ目は表象機能を持つ言葉＝歌詞を支えるものとしての音楽である。一つ目は古代ギリシアのピュタゴラス以降からヨーロッパに引き継がれた伝統である。宇宙のシステムが数比関係に基づいているという考えの下、音楽の音階が数比計算で作られることから音楽を宇宙のミーメーシスと捉える。二つ目は音楽とは何より歌のことであり、その歌詞が表現することこそが音楽の中身であり楽音はそれを支えるにしか過ぎないと考える。言葉は何らかの情景や感情を表象することができる以上、音楽はその言葉の持つミーメーシスの力に依存しているということができる。

標題音楽と絶対音楽とは、共にこのようなミーメーシスに基づく伝統的な音楽に対して 18 世紀末にドイツ語圏に登場した新しい音楽なのだ。ということは、すべての音楽を標題音楽と絶対音楽に分けてしまえば、それ以前の音楽は存在しないことになってしまう。二項対立を設定することの危うい点がここにある。もちろん、楽音以外のすべての要素を排除して純粋に音楽の本質のみを追求しているのが絶対音楽であるのに対し、音楽を音楽外要素との関係で理解しようというのが標題音楽だとすれば、一見、この世のすべての音楽は標題音楽と絶対音楽の二つに分けられるように思えてしまう。しかし、たとえ表面的に標題音楽や絶対音楽であるかのように見えたとしても、その成り立ちから考えて伝統的なミーメーシスの原理に基づく 18 世紀以前の音楽は、標題音楽にも絶対音楽にも分類してはいけないものなのだ。

ピュタゴラス以来の宇宙の音楽のオリジナルは耳に聞こえない状態であり、我々が聴いている音楽はその写し＝コピーに過ぎない。対して、標題音楽にしても絶対音楽にしても主役は耳に聞こえる音楽である。それまでの宇宙と音楽の象徴関係が意識されなくなっていくことによって、これらの新しい音楽美学は誕生したのである。

ルソーの言う歌詞の言葉が有するミーメーシスの原理に依存した音楽では、あくまでも楽音は歌詞の意味を支えるだけだったのに対し、標題音楽は楽音はメッセージを伝える言語の一種であり、その意味内容が抽象的であるだけに日常言語より上位にあると考える。ルソーの時点では器楽は言葉に従属していたのだから、標題音楽の発想は 18 世紀までのミーメーシス音楽とは一線を画しているのが分かるだろう。

ところが、19 世紀に標題音楽と絶対音楽の対立が登場して以来、すべての音楽はこのどちらかに属すような感覚が席巻してしまった。歌詞や解説である標題がついていれば標題音楽、純粋な器楽として創作されたもの、すなわちインストロメンタルが絶対音楽という区分である。しかし、標題音楽にしても絶対音楽にしても、18 世紀までの伝統的なミーメーシスに基づいた音楽に対して、新しい音楽として 18 世紀末から 19 世紀にかけて歴史上に登場したものなのだ。

日常言語は各国語に分かれており、国や地域が違えば通じなくなる。対して、音楽は言葉の違いを超えて万人に伝わる普遍言語であるという美学が、音楽に新しい時代をもたらしたのである。この音楽が伝える高次なメッセージを詩として説明しようとしたのが、標題音楽で、そこから詩という言語的要素を排除してメッセージは音楽そのものであるとしたのが絶対音楽なのだ。いずれにせよ、言葉の助けを借りずとも音楽は音楽独自の力で何らかのメッセージを伝えることができるという立場をとる点で、標題音楽と絶対音楽は共通している。そしてフランスでは、標題音楽は新しい詩を導く芸術として象徴主義者を中心に大きな影響力を持つようになるのに、絶対音楽は無視されている。

まとめてみよう。標題音楽は、音楽は日常言語以上にメッセージを伝えることのできるより高次な言葉であるという立場をとる。絶対音楽は、音楽はより高次なメッセージを伝えるものであるがそのメッセージとは言葉で翻訳できるものではなく、音楽の響きそのものである、という立場をとる。それらに対して、18 世紀以前の伝統的なミーメーシスに基づく音楽は、あくまでも宇宙のシステムや日常言語に従属していると考えるのだ。標題音楽と絶対音楽という新しい音楽とそれ以前の音楽の断絶を確認しておきたい。

音楽を盗む!その奇想天外な工夫の数々(その 1)

純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

1、ギョッ！まったく同じメロディの校歌が--------

今年の高校野球もまた、たいへん面白かった。野球の中身についてではない。なにしろあれだけの規模のビッグ・イベント、虚実おりまぜた教育現場の実態などとならんで、思わぬエピソードやハプニングが生まれる。
８月１５日付けのスポーツニッポンの紙面にかなり大きな記事がでた。

＜アレレ、甲子園に中学校歌？！＞
専大北上そっくり”唱”秋田・金浦

熱戦つづく夏の甲子園「全国高校野球選手権大会」で思わぬ”珍事”が持ち上がった？　十日の第四試合で兵庫代表・村野工業高校を破り、見事初陣を飾った岩手代表・仙台北上高校の校歌と秋田県・金浦町の金浦中学校校歌のメロディがほとんど同じであることが１４日までに確認された。

私は職業がら、各校応援団のブラスバンドの実力や、やる曲の内容などが気になるたちだが、なかでもひときわ気になるのが、勝利校の校歌吹奏である。歴史の古い明治ころの開校の曲は、歌詞もメロディもまさに「明治調」だったりして、日本の校歌たるもの、見事にパターン化され、ほとんどの曲がもっともらしい「校歌」になっている。

そんななかにあって、はしたなくも露呈したのが上記の「同じメロディ？」エピソードだ。一回戦で勝った専大北上校の校歌が吹奏されるや、驚いたのが金浦中学の先生だったというわけだ。たんに似ているという以上のものが感じられるので、愛知芸大の石井歓名誉教授に判定を仰いだところ、その二曲はまったく同一のものと判明したというのだ。中学の方がわずかに早く、昭和３１年制定、高校の方は翌３２年だった。

皮肉なことにこの二曲の作曲者はまったく同一人物で、判定を下した石井歓教授の伯父に当たる人だったのである。

面白いのは金浦中学の人たちの反応だ。メロディの流用に怒るのかと言えばそんなことはまったくなく、返って親しみをおぼえて喜んでいるとのことである。当事者たちが気にしないからといって、疑問は消えるわけではない。姉妹校でも何でもない学校同士なのに、なぜこんなことが起きてしまったのだろうか。まあごく単純に言えば、先に作った曲のイメージがよほど強く作曲家のなかに残っていて、どうしてもそれを乗り越えるメロディを思い付くことができず、歌詞の字足もそろっていることだし、エエい、ままよ、土地も離れていることだ、バレるはずもない、よし、前のを使っちゃえ！　というようなことではないだろうか。

さてここに、音楽著作権上の問題が生じるだろうか？　法の詳しい運用面は知らないが、両校が同一の作曲家に発注したのが事実であれば、私の印象では１００％問題は生じない。（実は校歌には音楽著作権の適用は除外されている）ただ先に使用している側から専有権を主張されたら、あとの学校は不利にはなるだろう。また当事者の誰かが詐欺罪で作曲家を訴えれば話はまたちがってくるが、これは著作権上の問題ではなく、あくまで作曲家個人の信用問題に過ぎないが、幸いなことに？この作曲家は他界されている。

セレモニーの「顔」たる校歌だからこそ目立つ話ではあるが、実はこんな話はヤマほどある。

クラシックの場合ではロッシーニの例が有名だ。イタリア・オペラの作曲家として超売れっ子となったロッシーニは、あるオペラの開幕までに序曲の作曲が間に合わず、とうとう前に公演してあまり売れなかったオペラの序曲を流用している。従って同じ曲に二つの題名がついているという珍事がいまでも続いている。その他の作曲家でも、以前評判にならなかった曲を別のものに流用して有名になった例はいくらでもある。

ポップス界では、前に売れなかったメロディを歌詞を変えたら大ヒットしたという例などは、特に珍しいことでもない。

こんな場合、ロッシーニを除き、人に後ろ指を指されることはなにもない。またロッシーニの場合も、もしバレたからと言って詐欺罪で訴えられることもない。しかし、各種メディアの発達した現代ともなればそうは行かなくなる。例えば企業からの発注で作った曲、社歌やＣＭソングなどの場合、競合会社のトヨタとニッサンのメロディが同じだったりしたら大問題となろう。両者が同じ

作曲家に発注するということは考えられないからそういう問題はおこりえないとは思うが、高校野球にまつわる話としてもうひとつ、なんとなく気にかかることがある。それは入場行進等に使われている長い長い高校野球賛歌、誰もが知っている例のメロディが、阪神タイガースの応援歌とよく似ているということだ。そしてまたその阪神タイガースの応援歌が何と、読売巨人軍の応援歌にもよく似ているのだ。
この三曲はともに同じ作曲家の曲である。こともあろうに阪神と巨人がおなじ作家に応援歌の発注をするなんて、いまでは信じられないようなおおらかな時代があったものである。

2、マネと盗みの違い

　何の因果で作曲家になってしまったんだろうと自分を哀れに思う瞬間ほどつらいものはない。どういう瞬間にそうなるのか------。
自分では充分自信をもって指揮棒をふる。とてもいい音でいいメロディ、自分でもワクワクドキドキ、思った以上に効果的で、オレは世界一の天才などと思い上がっている瞬間に「何だ、ガーシュウィンにそっくりじゃないか」との酷い死刑判決が下されるときである。
ここでガーシュウィンといったのは、ただ例えに出しただけで、これがビートルズだろうと、ストラビンスキーだろうと古賀政男だろうと、本質的に変わりはない。この場合、ガーシュウィンということにするが、問題は、自分にはガーシュウィンのことなんかまるで念頭になかったということである。指摘した人間にじゃあ一体、ガーシュウィンの何に似てるんだいと刃向かうと、悪いことにちゃんと曲名まで上がってくるということもある。ところが自分はそんな曲はいままで一度も聴いたことがないのだからまったくおかしな状況になる。いくら知らないとムキになっても疑いはますます深くなる一方だ。
まあ、どこかでいつか耳にしたのが潜在意識に残っていたということも考えられなくもないが、本人に自覚がない以上、似ているということは偶然意外のなにものでもない。なのに、盗作まがいのレッテルを貼られるのは誠に理不尽で腹立たしく、心底プライドが傷つくものだ。
　こういうことが何回か続くようだと作曲家になる望みは即刻捨てたほうがよい。偶然はそう何回もあるものではない。たんなる自分の知識不足をさらけ出しているに過ぎないということなのだ。
しかしまた一方ではこんなこともある。自分は前々からバルトークを尊敬しており（これまたバルトークでなくてもいいのはもちろんのこと)、数々の曲を研究している。死ぬまでに一曲でいいから、あれほど複雑で格好いい曲を書きたいものだと思い込んでいるところへ、まさにバルトーク風の曲が合いそうな注文が飛び込んでくる。もう張り切るの何の、懸命に書きまくり、音がでた瞬間、何もかもうまくいっているとの感触を得たうえに、「バルトーク風じゃないか」という声に接しようものなら、その嬉しさたるや、まさに天にも昇る気分なのである。とてもじゃないが足元以下にも及ばない、遠い存在だったバルトークが、急に友人になったような晴れがましい気分すらするのである。こういうときの「バルトーク風」という言葉はまったく非難には聞こえず、大賞賛の声に

映るのである。作曲家の「業」とはかくも因果なものなのだ。
始めのガーシュウィンの場合、これは模倣でも盗作でもない。前にも述べたように、多くはたんなる世間知らずである。自分の曲に対して、これは絶対、自分の独創的なメロディ、スタイルだと言いきれるためにはよほどたくさんの音楽を仕入れて、引き出しにいれておき、まず自分自身でオリジナリティを確認しておかねばならないはずだ。才能と力のある作曲家にだけにしか＜偶然似てしまった＞という言い訳は通用しないものなのだ。
二つ目のバルトークの場合。これはいわゆる＜模倣＞といえるだろう。その作曲家はまだ発展途上なのである。ギャラをもらって勉強できるという幸福感にひたっていればよい。
　さてそれでは「盗作」とは------。
これはもう、まったく意識的に他人のフレーズを盗むことなのだが、あまり下手くそに露骨にやるとバレてしまうので、これにもかなりの技術はいる。
一昔前のレコードアレンジャーたちは、他人よりいちはやくアメリカのヒットチャートものを取り寄せて、最新のフレーズとかサウンドを吸収し、すぐに日本の歌もののバックアレンジに反映させた。エリック・クラプトンの＜レイラ＞という曲がはやりそうになったとき、某アレンジャーは、そのおいしいフレーズをうまく日本の曲のなかに忍ばせ、結構ヒットした。
業界では、よくやるわいと苦笑したものだが、それがヒットして大分たってから、某カツラメーカーのＣＭに堂々とそのフレーズが登場したのにはびっくり仰天させられたものだった。アレンジャーの盗みはソフィストケートされているから、わかるものだけの世界に留まるが、ＣＭに登場したフレーズはあまりにも露骨にその姿をさらしていた。そのＣＭを作曲した人は、恐らくエリック・クラプトンのこともしらず、歌謡曲の方からいいフレーズを盗んだ気でいたのだろうけれど、これはもう露骨すぎて、笑うわけにもいかない。
もし、盗作の根拠にした曲に著作権がある（作詞、作曲家が生存中か死後５０年以内）場合、原曲の著作権保持の関係者から訴えられると、はなはだ厄介な裁判にかけられることになる。そういうおもしろい（他人から見て）例は後ほど述べるとして、その前に模倣と盗作の違いについてもう少し考えてみよう。
　古今東西の芸術家の出発点はもちろん模倣に始まる。どんな天才的な子供でもお手本なしに上手な絵はかけない。
バッハはヴィヴァルディを模倣し、モーツァルトはマンハイム楽派とハイドンをまね、初期のベートーベンはモーツァルト風だった。
だいたい、モーツァルト時代までというのは、作曲家が他人のフレーズを盗むことをとがめる土壌などまるでなく、いわゆる「盗作」というものはもっと大掛かりで組織的なものだった。当時、若手で売れっ子の作曲家が登場すると、各地、各国でいちはやくその作曲家の名前を騙った贋作を音楽出版社みずからがデッチあげ、販売したのだ。これではもう盗作というものではなく、ニセモノ作りである。
　ペルゴレージという 24 歳で死んだ天才作曲家などは 60 まで生きたとしてもとうてい書ききれなかったほどの贋作が出回っているし、いまでもモーツァルトの作品のいくつかには「？」マークがついている。当時の作曲家の「売れっ子度」は、どれだけ贋作が出回っているかということでもあったのだから、作曲家個人が他人のフレーズを盗むなどということにはほとんど犯罪の意識すら

なかったのではないだろうか。
　ストラディヴァリを始めとした楽器の贋作といい、楽譜の贋作といい、ヨーロッパ人は実にニセモノ作りが好きなようである。いや、そんな言い方は失礼かも知れない。日本よりずっと前にバブル経済を経験済みだという文化的先進国のあかしだともいえるのだから。
　話をもういちど作曲家自身の問題に戻そう。
後世に残る有名作曲家でも若いときの作品は何々風だったりするが、いつまでもその場に留まっていると一流の作曲家にはなれない。問題はすごい才能を持ちながらいつまでも模倣を続ける作曲家と、もうひとつ、パロディ的な作曲態度を好む人の存在である。
才能があり、器用な作曲家ほどいろんなスタイルを書き分ける能力を持っており、また好んでパロディ的に他人のスタイルをまねする人たちも多い。とくに狙いのはっきりしたＣＭ音楽などの場合、スタイルの模倣を露骨に要求されることが多い。私も３０秒のＣＭで頭がバッハ風、中がジャズ、そしてギンギンロックという綱渡り的な要求をされたことがある。こうなってくると、何が模倣で何が盗作かという境界線なんてもう見いだせない。模倣か盗作か、それを一番よく知っているのは作曲者自身だろう。
大分前、クラシックとは無縁の作曲家の仕事場へ顔を出したとき、クラシックのテーマ・インデックス辞典が棚においてあった。私は皮肉まじりにクラシックの勉強をしているのかときいたところ、答えが面白い。「いや、自分の曲が何かに似ていないかどうかを調べるんですよ」といいながらウィンクし、ニヤリとした。このウィンクの意味、おわかりとは思うが。

CD レビュー純正茶寮
『Invitation au voyage』(旅への誘い)
純正律音楽研究会理事　黒木朋興

『Invitation au voyage』(旅への誘い)
LES VOIX De GAÏA
chants polyphoniques du monde
(ガイア-地-の声　世界のポリフォニー歌唱)

昨年の秋、8回目の来日ライブを果たしたフランスのジャズ・ロックの雄、Magmaの新メンバーであるローラ・グワラトが行っている合唱グループである。ハーディー・ガーディーのような古楽器やパーカッションを伴奏に歌のハモリを前面に押し出している音楽だ。同種のフランスのグループにこの項で散々紹介したMalicorneがあるが、Malicorneがフランスの伝統音楽を演奏しているのに対し、LES VOIX De GAÏAはフランスだけではなくバルカン半島、東欧やアフリカなど世界中のポリフォニーの曲を演奏している。

メンバーの一人一人は声楽家であり、ホーメイまでこなす力量を持っていてそのレベルは相当に高い。

残念なことに、このアルバムは自主制作であり、ネット等でも手に入れることはできない。去年のMAGMA来日の折、ローラ本人にポリフォニーに興味があると言ったら、早速送ってくれた。ただし、You Tubeでも彼らの演奏を聴くことができるし、現在2枚目のアルバムをレコーディング中とのことである。彼らの新譜が出たら必ずこの項で紹介することをお約束する。

http://www.lesvoixdegaia.com/

シベリウス

NPO法人 純正律音楽研究会
正会員　弁護士　齋藤昌男

１，　人生においては、時たま「ハッ」とする衝撃的な名曲に遭遇することがあります。私にとりまして讃美歌第二編298番がそれです。讃美歌第二編が出販されたのは、１９５４年（昭和29年）ですから、私が高校生の時です。各讃美歌の右上には、外国語で原曲名及び何処から引用されたか書かれています。讃美歌には、シベリウスのフィンランディアと書かれていました。当時はＣＤやカセットテープがなく、７８回転のレコードを仕入れました。聞いてみて再度、驚かせられました。讃美歌のメロディーは、中間部のメロディーで、前後に強烈なメロディーがついていました。フィンランディアは、１８９９年、シベリウス３３歳のときの作品で、当時帝政ロシアの圧政下に苦しんでいたフィンランドでは、独立運動の機運が高まっており、新聞社が企画した愛国的な歴史劇のために作曲されたものです。フィンランディアの中間部のメロディーに、１９３７年、フィンランドのオペラ歌手が初めて歌詞をつけました。その後、１９３９年にソ連軍がフィンランドに進軍し、いわゆる「冬戦争」が始まりました。この戦争の最中に、フィンランドの詩人が、新しく愛国的な歌詞を付け、更にシベリウスが合唱曲に編曲しました。この様にして、中間部のメロディーは、「フィンランド賛歌」として歌われ、フィンランド第２の国歌とされました。それが讃美歌第二編２９８番として引用されたのです。

２　（フィンランド略史）

（１）1,000年頃には森を愛する人々この地に入植

（２）１１５５年スウェーデンがフィンランドに北方十字軍を派遣し、フィンランドを征服し、キリスト教を広めました。

（３）１３２３年スウェーデンとロシアの国境が画定し、スウェーデンの一部となりました。この為、フィンランドには、スウェーデン語を母語とする人が多くいます。

（４）１８０９年スウェーデンはフィンランドをロシアに割譲、ロシア皇帝が大公を兼ねるが、自治権を持つフィンランド大公国が建設されました。

（５）１９１７年ロシア革命の際に独立を宣言し、共和国となりました。

（６）冬戦争（１９３９年）及び継続戦争（１９４１年）で旧ソ連に敗北、国土の１２％を失いました。しかし独立を守りました。

３　（シベリウスの生涯）

（１）幼少期

１８６５年１２月８日、フィンランド大公国のハメーンリンナに生を受けました。

１８６８年と言えばフィンランド史に残る大飢饉の年であり、記録によると同年４月と５月だけで優に４万人を越える死者が出たといいます。彼らの治療に当たった医師も一緒に命を落としており、その一人がシベリウスの父親でした。

シベリウスは母親と共に祖母の家に身を寄せねばならず、女性中心の環境に育ちました。シベリウスが１０歳のとき、叔父が彼にヴァイオリンを与え、後に作曲へ興味を持つように激励しました。

シベリウスの母語はスウェーデン語でありましたが、フィンランド語の予科校に入学し、大学への入学資格を取得しました。

（２）初期

シベリウスはまずヘルシンキ大学の理学部に入学しました。その後すぐに法学部へと変更しましたが、これで祖母カタリナへの義理を果たしたと考えたようです。

同時にシベリウスはヴァイオリンの勉強を続けるため、３年前に設立されたばかりのヘルシンキ音楽院（現シベリウス音楽院）にも通うようになりました。

ヘルシンキ音楽院を卒業したシベリウスは、初めての留学先にドイツ帝国の首府ベルリンを選びました。１８８９年９月のことです。１８９０年代にはブルックナーの音楽に関心を示し、一方でベートーヴェンやワグナーの作品への興味を持ち続けました。

（３）結婚

１８９２年6月１０日､アイノ･ヤーネフェルトと結婚しました。新婚旅行は、民族叙事詩「カレワラ」発祥の地であるカレリアで過ごしました。この体験が後に作曲された交響詩の着想を与えることになりました。そして２人は６人の娘を授かりました。尚「カレワラ」とは、医師レンロードが主に東フィンランドのカレリア地方に伝わる民謡を採録し、再構築したもので、１９世紀前半に刊行されました。物語は天地創造に始まりキリスト誕生に対応す

る男子誕生で終わっています。

（４）　１８９６年、ヘルシンキ大学音楽部教師ポストに応募しましたが、ロベルト・カヤヌスの猛反対に会いました。ロベルト・カヤヌス（１８５６年―１９３３年）は、フィンランドの作曲家、指揮者で２０代の若さで、北欧最古のヘルシンキ・フィルを立ち上げた人です。

（５）　１８９７年、ヘルシンキ大学のポストが得られず、代わりに３０００マルッカの年金給付が決定しました（但し１０年間の期限付き）。

（６）　１８９９年、交響曲第１番（初稿）完成。

（７）　１９００年、愛国的運動の一つとして、歴史劇「歴史的情景」の上演が、ヘルシンキのスウェーデン劇場で企画されました。「カレワラ」の時代から１９世紀までのフィンランドの歴史的な「情景」を６つ並べたものであり、そこには、自国の歴史への回顧と誇りが込められていました。それは、当然、ロシアへの反抗の意志でありました。シベリウスは、序曲と６つの「情景」のための音楽を作曲しました。シベリウスは、当時、３３歳でした。
最終場面「フィンランドの覚醒」のための音楽が、やがて独立して「フィンランディア」となりました。

（８）　１９００年3月１３日付で、シベリウスは「X」と言う差出人から、謎めいた手紙を受け取りました。「貴殿はパリ万博への遠征公演を飾る序曲のような作品を作られたらどうでしょう。その名は「フィンランディア」と名付けられるべきです。」とありました。この人物はアクセル・カルペラン男爵で（１８５６年―１９１９年）で、シベリウスよりも７つ年上で、おおよそ２０年間にわたり、この奔放な作曲家を経済的、精神的に支え続けるパトロンとなりました。

（９）　パリ万博への遠征公演
１９００年のパリ万博への遠征公演は、フィンランドにとって歴史的な出来事でした。ユニークなフィンランドのパヴィリオンが好評でした。一方、パリ万博へ参加したヘルシンキ・フィルは、ストックホルムを皮切りに、１０以上の各都市を経由して数多くのコンサートをこなした後、パリのトロカデロ宮で２回のコンサートに臨みました。メインとなったのは、シベリウスの交響曲第１番でした。シベリウスは副指揮者として参加していましたが、この１か月あまりの遠征公演で、フィンランドを代表するシンフォニストとして国際的に知られるようになりました。
またこの歴史的な大事業の遂行を通じて、シベリウスとカヤヌス両者が和解する方向へと歩み寄ったことも大きな収穫でした。

（１０）１９００年、３女キルスティ死去
彼女は、１８９８年１１月１４日生まれですが、この年シベリウスは、瞑想的な男性合唱曲「わが心の歌」作品１８の６を作曲しており、「禍も争いもない平和な黄泉の国の木立に亡き子を送りましょう。」と歌われ境地は、３女の悲劇を予感しているようで

す。偶然にも数年後、マーラーも同じように「亡き子をしのぶ歌」（１９０４年）を書いた後、愛娘マリア・アンナをジフテリアで亡くすという痛ましい経験をしています。

（１１）長期のイタリヤ旅行

シベリウスにイタリヤ旅行を進めたのは、ミスター「X」ことアクセル・カルペランです。アクセル・カルペラン男爵は、スウェーデンの有名な資産家アクセル・タムに援助を呼びかけました。さらに他の支援者からの援助を含めて、およそ５０００マルッカの資金が瞬く間に集まりました。それは、シベリウスが家族３人を伴ってイタリヤ滞在するのに十分な金額でありました。

シベリウス一家がイタリヤに向けて出発したのは１９００年１０月27日で、ドイツに長期滞在したためイタリヤに入ったのは、１９０１年１月末のことでした。真冬にもかかわらず、陽光溢れる南国の風景に刺激を受けたシベリウスは、本腰を入れて作曲に取り組みました。シベリウスはイタリアの音楽に深い共感を覚えました。確かにシベリウスの音楽には北國特有の内向性、神秘性、哀愁、寂寥感に包まれた部分もありますが、陽気で人懐っこい要素もあります。

（１２）交響曲第２番の作曲

１９０１年５月、シベリウス一家は、フィンランドへ帰国しました。しかし落ち着く間もなく、シベリウスはハイデルベルク音楽祭で指揮をするため同地へ向かいました。ハイデルベルクから戻ったシベリウスは、ラパッロで手を染めた「祝祭」、フィレンツェでスケッチした「神曲」の完成を目指しますが、なぜか完成しませんでした。そこで新たに取り組んだのが交響曲第２番です。シベリウスはカルペラン男爵ら支援者達にイタリヤ旅行の成果を披露するため、何らかの大規模な作品を発表する必要がありましたが、交響曲第２番の完成は１９０２年までずれ込んでしまいました。

（１３）「アイノラ」へ転居

再びヘルシンキで生活を始めたシベリウスは、１９０２年末、「エウテルペ」と称する芸術家集団の一員ととなりました。エウテルペへの集まりは、高級レストランでの酒盛りの生活と言う悪しき習慣を取り戻してしまいました。心配したアイノは、庇護者カルペランに相談して、ヘルシンキの借家生活をやめて、都会から離れた持家で自然豊かな生活を送る事を提案しました。

アイノは兄エーロが既に住居を構えていたヤルヴェンパー近郊のトゥースラ湖畔に目星を付け、転居を夫に提案しました。意外にもシベリウスは、直ぐに賛成しました。１９０４年９月、シベリウス一家は、「アイノラ」と呼ばれる新居へ転居しました。「アイノラ」と言うのは、妻アイノのいる場所と言う意味です。ヘルシンキから数１０キロと言う絶妙な距離、森と湖に包まれた大自然、都会の汚濁と喧騒から離れた生活は、その後

のシベリウスの音楽に良い影響を与えた事は、言うまでもありません。

（１４）日露戦争の勃発

１９０４年２月には日露戦争が勃発しており、１９０５年５月２７日対馬沖で、日本海軍がバルチック艦隊を全滅させました。極東のほとんど無名に近い小国が戦いを挑んだと言うことは、世界中のどの国民よりも、フィンランド人に深い衝撃をあたえました。

（１５）初めてのイギリス訪問

１９０５年末、４０歳を迎えようとしていたシベリウスに新たな展望が開けました。初めてのイギリス訪問です。１９０８年、０９年、１２年、２１年と計５回のイギリス訪問により、シベリウスの音楽はイギリスで大きな影響力を持っています。５回もシベリウスを向かい入れていると言う事は、イギリスにおける交響曲的ジャンルにおける新しい形式，構成原理の探求でした。シベリウスの交響曲第１番及び第２番は、エルガーの代表作、交響曲第１番（１９０４年）に数年先駆けて初演されています。

（１６）喉の疾病

ヘビースモーカーで極度の飲酒癖のシベリウスですが、１９０７年の終わり頃から、しわがれた声と喉の痛みを訴えました。ベルリンの有名専門医の診断を仰ぐよう勧められました。本格的な検査の結果、喉に腫瘍が見つかりました。財政状況は逼迫していましたが、何とか金策し、ベルリンで腫瘍の摘出手術を受け、何とか成功しました。しかし、再発が懸念されたため、シベリウスの禁欲生活は、おおよそ７年にわたり續きました。

（１７）１９１２年、タイタニック号の沈没

（１８）１９１４年、この年シベリウスは、生涯唯一のアメリカへの演奏旅行をしています。ノーホーク音楽祭へも出演しています。その後シベリウスは、ナイアガラ滝を訪れています。シベリウスは雄大な自然現象を何とか音楽表現で捉えようとしましたが、「全く駄目だ。とても荘厳、広大で、人間の力ではとうしようもない。」と語ったと、伝えられています。ナイアガラ滝を見てマーラーは、「芸術は自然よりも遥かに偉大だ。」と語ったと、伝えられており、ヴォーン・ウィリアムズは、「神の業より（摩天楼を作った）人間の技に驚かされる。」と、述べたと伝えられています。以上のことからすると、シベリウスの音楽は超越した存在に対する畏敬の念に支えられていると言えましょう。

（１９）第一次世界大戦の勃発

１９１４年６月 28 日、アメリカよりの帰路の船上において、シベリウスは、オーストリア・ハンガリー帝国の皇位継承者フランツフェルディナンド夫妻がサラエボで暗殺されると言う衝撃的なニュースを耳にしました。この事件を切掛けにして同

年夏に勃発したのが第一次世界大戦です。以後、４年あまりの長期にわたり戦争は續きました。ロシアの支配下にあったフィンランドは、名目上、ドイツやオーストリアと敵対関係に置かれることになりました。大戦が終わるまで、シベリウスは、一度の例外をのぞき、海外演奏が出来なくなりました。その上、スカンジナビア諸国やアメリカ以外、シベリウスの作品が演奏される機会が減りました。

（２０）１９１５年、５０歳の祝賀コンサートで交響曲第５番（初稿）初演

（２１）１９１７年、ロシア革命でニコライ二世が退位、ロマノフ王朝が崩壊すると、レーニン率いるボルシェヴィキの左派勢力によりソヴィエト連邦が、形成されていきました。これを機に、同年１２月６日、フィンランドは、独立宣言しました。

（２２）１９１９年３月下旬、カルペラン死去

（２３）１９２３年　関東大震災

（２４）１９３３年　カヤヌス死去

（２５）１９３３年　ヘルシンキのカンミオ通り（後に「シベリウス通り」に改名）にアパートを借りました。
同年　第二次世界大戦勃発
同年　フィンランド、ソ連間で「冬戦争」勃発

（２６）１９４１年、ソ連の無差別爆撃に伴い、シベリウス一家はヘルシンキのアパートからアイノラへ戻りました。

（２７）１９４４年、フィンランド、ドイツ間で「ラップランド戦争」勃発

（２８）１９４５年、第二次世界大戦終結

（２９）１５５１年、第１回シベリウス・ウイークが開催されました。

（３０）１９５７年９月２０日、シベリウス死去
この年にソ連が人工衛星スプートニク１号の打ち上げに成功しています。

４，（シベリウスは、何故30年以上も沈黙してしまったのか。）

（１）交響曲第７番を作曲したのが１９２４年、交響詩『タピオラ』の初演が１９２６年、シベリウス一はそれ以降、殆ど作品を書かず事実上創作活動を終えてしまいました。別荘で隠遁生活を送ること３０年以上、余りにも長い沈黙であります。

（２）空白の３０年余の間には、セルゲイ・クーセヴィツキ（１８７４―１９５１）が率いるボストン交響楽団によって、交響曲第８番の初演が企画されていました。更に幾つかのオーケストラで初演が予定されていましたが、曲は完成しませんでした。１９４０年代の終わり頃、シベリウスは、交響曲第８番の草稿を暖炉で燃やしてしまいました。何故でしょうか。

（３）同じ晩年の空白と言っても、ロッシーニが早期に筆を折って、グルメ三昧して楽しんだのとは事情が違います。

（４）シベリウスの交響曲はどれも似ていません。作風の変遷を経て、１曲１曲が独自の価値を持ち、それでいてシベリウス以外の誰の

ものでもない音楽になっております。

（５）シベリウスは第８番をこれまでに書いた７つの交響曲を超えるものでなければならないと考えていた事は間違いない事でありましょう。それが思うように出来なかったのでしょう。その上、無調や十二音技法の登場など、急激に変化する同時代の音楽動向の影響もあるかもしれません。

５、　　（シベリウスの音楽）

（１）交響曲

シベリウスは、交響曲とは何かと、その本質を追及した人と言われていますシベリウスは、７つの交響曲を作曲しています。CD４枚に納まりますので

日本のものも外国のものも比較的手に入り易いものです。

① 交響曲第１番　ホ短調　作品３９

シンフォニックな絶対音楽の領域で独自の表現世界を切り開こうとしたシベリウスの、文字通り出発点となった作品です。１８９８年春に着手し、翌９９年４月に初演されました。

② 交響曲第２番　ニ長調　作品４３

交響曲全体の構成は古典的な４楽章制が取られていますが、ベートーヴェンの第５番のように、第３楽章のスケルツォと第４楽章のフィナーレがアタッカで結合しています。１９０２年初頭に完成しました。

③ 交響曲第３番　ハ長調　作品５２

シベリウスの交響曲に作風の質的転換をもたらした重要な作品と言われています。アイノラへ移転する直前の１９０４年９月に着手され、１９０７年秋完成しました。

④ 交響曲第４番　イ短調　作品６３

作曲者が人生上の困難を抱えた時期に取り組まれた大作であり、１９１１年４月に初演されています。当時の彼を悩ませいたのは、膨大な借金と、咽喉腫瘍の疾病でした。幸いなことに、借金は徐々に減り、病気の方も手術後、回復に転じています。

⑤ 交響曲第５番　変ホ長調　作品８２

１９１５年、５０歳を迎えた作曲家の祝賀コンサートで発表された作品で、2度の改訂で最終稿は１９１９年に出されています。その創作は、第１次世界大戦の時期に重なります。シベリウスはフィンランドで孤立を余儀なくされていました。面白いのは第３楽章の最後の休止符です。マーラーならば、大きな太鼓の様なもので、大きな音を出すところ、シベリウスは文字通り休止して音を出しません。

⑥ 交響曲第６番　ニ短調　作品１０４

具体的な着想から完成まで８年半かかり、１９２３年２月に初演された作品で、第７番と同時に構想が練られた為、時間が長く掛かったと言われています。第６番は極めて清澄な音楽です。

⑦ 交響曲第７番　ハ長調　作品１０５

交響的形式に対するシベリウス独自の考え方が、極めて鮮明な形で現れている作品です。紆余曲折の末、最終的に単一楽章型式が採用されています。作曲家独自の交響曲形式の到達点を示す秀逸な作品

です。１９２４年３月初演されました。

（２）劇音楽「カレリア」

カレリア地方は、現在はフィンランドの国境に近いロシヤ領です。この地方はフィンランドの人々にとって精神的故郷と言われています。１８９３年に「カレリヤ」と言う野外劇のために作曲された音楽です。この劇音楽から、序曲「カレリヤ」と組曲「カレリア」が編曲されました。

（３）劇音楽「歴史的情景」

１８９９年にロシヤ皇帝ニコライ２世による「「２月宣言」によりフィンランドの自由は次々と奪われ、ロシヤの属領化策が強引に推進され、フィンランドの愛国運動の高まりが激しくなりました。こう言う愛国運動の一つとして、歴史劇「歴史的情景」の上演が、新聞関係者によって企画され上演されました。「カレワラ」の時代から１９世紀までのフィンランドの歴史的な「情景」を６つ並べたものであり、そこには、自国の歴史への回顧と誇りが込められています。シベリウスはこの劇の最後の情景「フィンランドの目覚め」の音楽を改訂し、１９００年に「フィンランディア」として発表されました。

（４）ヴァイオリン協奏曲

２大ヴァイオリン協奏曲と言えば、メンデルスゾーンとチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を挙げるのには異存ないでしょう。３大ヴァイオリン協奏曲と言えば、シベリウスを入れる人が多いと思います。初稿は１９０４年２月８日で、改訂稿は１９０５年10月１９日に初演されました。かってヴァイオリンニストを目指したシベリウスの作曲である為、極めて高度の技術が要求され、それが初稿の失敗の要因の一つでありました。

（５）弦楽４重奏曲「親愛なる声」

シベリウスは弦楽４重奏曲を４曲残していますが、最後の「親愛なる声」が有名です。

（６）劇付随音楽「ペレアスとメリザンド」

ベルギーの作家メーテルリンクの戯曲「ペレアスとメリザンド」（１８９２年）発表直後より多くの作曲家にインスピレーションを与え、さまざまなジャンルで、音楽化が試みられてきました。フォーレやドビュッシーら、フランスの作曲家がこの戯曲に注目し、フォーレは劇付随音楽（１８９８年）、ドビュッシーはオペラ（１９０２年）にそれぞれ傑作を書いています。その後シェーンベルク交響詩（１９０３年）を発表しています。シベリウスの劇付随音楽の発表は１９０５年です。

（７）劇付随音楽「イエーダーマン」

ホフマンスタールの作品を劇付随音楽としたもので、宗教的題材を扱っております。もともと中世イギリスの道徳劇を改作した作品です。主人公の拝金主義者イエーダーマンが、恋人や友人たちと宴に興じていると、突然「死神」が現れて、彼を連れ去ろうとします。誰もイエーダーマンを助けようとはしません。しかし、唯一、病ん

だ女「善行」が手を差し伸べて、自分の姉「信仰」に救いを求める様に助言します。ついに悔悛したイエーダーマンは「善行」と、墓に赴き、その魂が救済されるとする寓話に基づいています。１９１６年の作品です。

（８）劇付随音楽「テンペスト」

シェイクスピア作「テンペスト」の劇付随音楽で、１９２６年にコペンハーゲン王立劇場で初演されました。「復讐と束縛から赦しと解放へ」と言う人間の普遍的なテーマを描いた「テンペスト」は、シェイクスピア晩年の傑作です。シベリウスの付随音楽は３６曲を数えます。

（９）ピアノ曲

シベリウスは数多くのピアノ曲も手掛けており、その総数は、およそ１５０曲に上ります。

（１０）歌曲

シベリウスは生涯に歌曲を１００曲以上手掛けています。

（参考資料等）

１，菅野浩和著「シベリウス　生涯と作品」音楽之友社発行
２，神部　智著「シベリウス」音楽之友社発行
３新保裕司著「シベリウスと宜長」港の人発行
４，Wikipedia「シベリウス」
５You　Tube
（１）　藤岡幸夫シベリウス
（２）　厳選クラシックちゃんねるシベリウス

以上

２０２３年6月１８日脱稿

今後のスケジュール

【癒しのハーモニーコンサート 2023 Summer】
2023 年 7 月 29 日(土曜日)
午前の部 11 時 30 分開演
午後の部 15 時開演
会場 ： 横浜市磯子区民センター「杉田劇場」

おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072
東京都新宿区百人町 4-4-16-1218　NPO 法人 純正律音楽研究会
お電話：03-5389-8449　FAX：03-5389-8449
e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp　　http://just-int.com/

2023 年 7 月 7 日　発行責任者： NPO 法人 純正律音楽研究会
編集： 相坂政夫

*純正律音楽研究会 YouTube チャンネルを開設しました。
コンサートや CD 紹介の映像が当会ホームページからご覧いただけます。
http://just-int.com/